

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500170
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム ほの花
所在地	新居浜市郷三丁目16-33
自己評価作成日	平成 28年 6月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 6月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっと、のんびり、かきねなし」この理念の元、入居者様の意向を大切に開かれた施設でありたいと努力している。ご家族との信頼関係、地域の方との交流を大切にしている。水分摂取に力を入れ、個別に目標を設定し、脱水の予防、便秘予防、日中の覚醒レベル向上に活かしている。排泄ケアにも力を入れており、排泄チェック表での排泄リズムの把握で、日中はほぼ布パンツで過ごせるよう自立支援に努めている。また、認知症状の改善には、服薬の見直しや学習療法を取り入れ、コミュニケーション能力の改善や生活の活性化に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人の複合施設が近くにあり協力している。アットホームな温かい雰囲気保たれ、和風の造りでほっとできる。利用者は職員を子供や孫のように愛し、職員は人生の大先輩として教えてもらうことも多い。職員の年齢差はあっても仲良く協力し、助け合いながらケアを実践している。「真の職員満足なきところに利用者の満足ない」ということをいつも頭に置いている。利用者一人ひとりのことを深く知るためにかかわり、その人に合わせ対応し喜ばれ、笑顔を見ることができる。出会ったことを大切に捉え、やりたいことが自由にでき、希望の叶えられる毎日であるよう、利用者を尊敬しながら日々取り組んでいる。運営推進会議では、改善したい点をアンケートを取るなど力を注ぎ、パワーポイントによる説明があり、議事録にきちんと残し、後で紐解くことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

が  
が

事業所名 グループホームほの花

(ユニット名) なでしこ

記入者(管理者)

氏名 阿部 勇一

評価完了日

平成 28年 6月 9日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>すいよう会の理念「地域と共に…」そのような理念を基に事業所の理念を作り、各ユニットで指針を作った。なでしこユニットとして引き続いて「知る事から始めます」を理念として行動指針にしている。新人職員が入職した際にもご利用者本人の事、ケアの方法、病気の事等、知らなくてはできない事が多くある事を教育の中で反復して説明し理念に基づいたケアを行う事が出来るよう実践している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>“ほっとのんびりかきねなし”笑顔で過ごす。暮らしの理念が共有空間に大きく書かれ、誰でも足を止めうなずくことができる。各ユニットごとにも指針を作り、利用者一人ひとりと深くかわり知ることによってケアに活かせることができている。利用者のやりたいこと、希望を叶えることで笑顔が生まれ、人生の大先輩としての尊厳を守りながら、出逢った縁を大切に、日々積み重ねている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>昨年度と変わらず、自治会加入、地域の行事にも参加しており、清掃活動等も行っている。また地域での行事がある際には楽しめるご利用者様と参加するようにしている。盆踊り大会の際には各自治会、社協、民協等の団体の方にお願ひし、ボランティアの協力を得ている。近所の方が、野菜や園芸の指導を行ってくれている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>自治会の定例会には、ユニットリーダーが出席し「よろしくお願ひ致します。」とあいさつしたり、盆踊り大会の案内もしている。地域の社協や民協の協力も大きく感謝している。野菜や園芸は、利用者を通じ地域の方の指導を受けている。すくすく育ったキュウリ、ピーマン、ネギ、ジャガイモなどの野菜は、食材として調理され食卓に登場し、利用者に喜ばれている。散歩の時には、近隣の方々にあいさつを交わしたり、となりの託児所に立ち寄ることもある。また、保育園の入園式や卒園式にも職員が数名出席するなど地域とのつながりもできている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>昨年度と同じく、法人全体で勉強会を実施しており、地域の方や、御家族様にも声掛けを行っている。その勉強会の中で事業所として事例を通じた取り組みを伝える事で、認知症などの理解を深めてもらえるようにしている。管理者が地域や他部署に出向いて、認知症について話をする事もあった。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) アンケートや直接ご家族様からの意見も聞き、ご利用者様本人 が良いサービスを受けられるように発信している。ヒヤリや重 大事故の報告に対し、意見を求めている。	
			(外部評価) 運営推進会議の実施日時や内容について見直しのためアンケ ートを実施するなど、一層中身の濃い会議を目指している。会議 では出席者はユニット内の見学を行うことにより事業所をよく 理解することができ、地域との連携を深めることができる機会 になっている。パワーポイント等の資料による説明やユニット ごとにテーマを決めて学習するなど、前向きな姿勢がみられ る。また、議事録はわかりやすく、後日紐解いてゆっくり読み 返すことができ、出席できなかった職員にもよくわかる内容で ある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 前年同様運営推進会議に参加案内は毎回している。定期的に待 機者報告を行っている。流行っている病気や、高齢者の身に起 こり得そうな事故の情報をいただき、カンファレンスで役立 ている。日頃から密ではないが、事前に相談が必要な案件や事故 対応については、素早く報告・連絡・相談している。	
			(外部評価) 事故報告書を提出したり、介護保険等について電話で聞くなど 行政とのかかわりがある。担当課の介護福祉課には、問題等が ある場合よく連絡を取っており、課題解決に向け話し合い共 に取り組むなど連携が取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎年4月の全体ミーティングで身体拘束についての勉強会を 行っている。以前同様夜間以外の施錠は行っておらず、ご利用 者様に動きがあった際にご利用者の気持ちや、どうしたいの か等関わりやケアを優先して行動できるように話し合いを持 っている。優先順位や方法等具体的にカンファレンスで話し合 うようにしている。	
			(外部評価) 年1回学習会を開催し、声掛けの際の言葉遣いやコミュニケー ションの取り方について、職員全員に徹底しており、「人とし て尊厳された言葉になっているか」、「その話し方でいい か」、「スピーチロックではないか」など、慎重に検討し業務 に生かしている。また、安全のためセンサーマットを使用し ているが、家族には説明し同意を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修で虐待についての勉強会を継続して行っている。リーダーとスタッフの面談の中で具体的にストレスに感じることを具体的に聞き取り、負担の軽減の出来る働き掛けを行っている。スタッフは痣や傷等身体に異常がないか確認し、介助を行っている。傷などの発見があった場合には原因を分析し、次回起こらないための防止策を考えている。今年度は、スピーチロックについて3回に分けて勉強をした。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 引き続き研修や勉強会などで学ぶ機会を設けている。現在、自立支援事業や成年後見制度を活用する事はないが、必要性のある際に適時活用できるように今後も学んでいく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず重要事項説明書を用いて、十分な説明を行い各項目毎にご家族に確認をし、承諾を得ている。解約や改定にも速やかに対応し同意を得ている。ご家族が理解できるように例えを用いたりしつつ理解に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 前年度に続き、ご家族からは運営推進会議や面会時、ケアプランの作成段階で聞き取り、事の進行状況の報告、ご利用者からは普段の会話やケアプラン作成時に意見や要望等を察したり、直接確認する事で、運営に反映させている。  (外部評価) 家族が来た際には、日々のケアや利用者の様子などをきちんと伝達しており、その際に家族から利用者一人ひとりの興味のあること、好きなことや地域の情報などを教えてもらっている。全職員が「関わることで知ることができる」といつも考えており、利用者からの情報は聞き逃さないよう努めケアに生かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング前面談は現在も引き続き行っており、各スタッフ個人の思いや希望、物事に対する思考、判断の理解を行っている。ユニットリーダーは、面談終了後、管理者へ報告、提案を行っている。  (外部評価) 職員は、管理者やリーダーには話しやすく、相談や悩みごとなどがあれば聴いてくれている。各ユニットリーダーは、日頃の利用者とかかわりで気づいたことなどを職員会等においてわかりやすく話してくれたり、職員からの意見も取り入れてくれたりと職員のことをよく考えており、職員もストレスがほとんどなく働きやすい環境に感謝している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) サービス残業をしない様通達し、残業は全て管理者に報告してもらい、適切な対応をしている。さらに、各担当業務に置いて、勤務中に済ませられるよう、時間を作るようにしている。個々の体調を考慮し、有給も取りやすいよう体調の把握に努めている。やりがいにおいては、各職員の特技・趣味を調査し、業務に取り入れた。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人研修（読書会、人材育成研修、管理者研修、認知症、介護技術等）の研修システムがあり、職員の質の向上に努めている。 ほの花内でも年6回勉強会をし小グループでの発表等も行い知識の伝達、伝達技術の向上、共有を目指して取り組んでいる。法人外の研修にはあまり参加できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人内他事業所との相互見学、ご利用者様と一緒に他事業所でのレクリエーションや行事、外出へ参加し、交流を図っている。大きな行事(夏祭り等)で部署間を超えて協力する体制も作っている。また法人内でも木鶏会、人材育成を行っており、他事業所の職員と意見交換交流をする機会を作っている。法人外では、ほとんど交流はない。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 今年度も新規入居者に対して一定のスタッフが数回にわたり面会し、馴染みの関係作りを行っている。入居してからがスタートではなく、それ以前より関係性や顔なじみの職員がいることでリロケーションダメージの軽減や、安心できる居場所づくりの基礎を作れるよう取り組んでいる。また住まわれている部屋の雰囲気や家具の配置をほの花でも再現し、可能な限り馴染みの空間での生活を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前後、直接や電話、お便りなど、情報の発信と収集に努めている。特に不安な事、強い要望には耳を傾けるだけでなく、現実的な対応をすることで、安心や期待に変えている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面接での情報を基に、安心して生活できる環境作り（物的、人的環境の整備）に努めている。また、ご本人やご家族に何度でも見学して頂き、納得して入居出来るよう努めている。入居前の段階でもほの花に来て食事を摂る等の事を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) それぞれの個性、持っている能力に合う役割を持っていただき家事や工作等一緒に行っている。何気なく発する感謝の一言もケアであることをカンファレンス等で具体的場面を設定して伝えている。また、行動自体が難しい方でも役割として知識、経験してきたことを聞かせてもらい、より良い関係が築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思い、家族が出来る支援を把握し、直接家族が関わられるよう支援している。具体的な内容は、ケアプランにも反映させている。例えば、食事、手浴、外出がある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前に使っていた社会資源について調べる事は現在も行っており、可能な限り、活用できている。また入居以前に利用されていた施設に友人等がおられる場合にはそちらへ行ったり、その方にほの花に来ていただいたりして関係を継続している。入所前に住んでいた場所へ外出も良い結果が生まれる場合には行っている。 (外部評価) 利用者との会話の中で「散髪はどこに行っていましたか」と尋ねるなど、本人の希望する馴染みの場所を把握し支援できており利用者からも喜ばれている。また、「体がしんどい」と訴える利用者は「〇〇神社にお参りしたら元気になるよ」と元気づけ参拝するなど、利用者の気持ちを汲んだ支援ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者の性格、好み、相性、言動などの視点から関係性を考え日常生活を送る様々な場面で配慮している。新規入居者が入居された場合には席や過ごす空間等初めはスタッフが介入しながら最も良いものを探すようにしている。また行事でも集団として喜べるものは実施と評価を繰り返しながら実施している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 引き続き退居後もご利用者様のご家族と連絡を取り、関係性を継続するよう心掛けている。法人の大きな行事の際には電話連絡を行い、お誘いするようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月ごとに担当職員がアセスメントを蓄積し、面談時にユニットリーダーとケアの変更等を行っている。ミーティングでも意見を聞き、その方の立場に立った最善のケアを選択できるように努めている。ケアの考え方について話し合いの中で難しい事案が出た場合には管理者、ユニットリーダーが方法や考え方についてまとめるようにしている。	
			(外部評価) ユニットリーダーは利用者には、笑い、ヨガ、カラオケ、絵手紙、ハンドマッサージ、写真アルバム作りや折り紙など何に興味があるかを問いかけ把握し支援している。自分で訴えにくい利用者には、さりげない様子や何気ない言葉など見逃さないよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴やアセスメントを活用し、さらにご家族が来訪された場合にお聞きする等して現在進行形での情報収集を継続して行っている。受診時やご家族が行事に参加される場合等、しっかりとご家族からの情報収集が出来るように心がけている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活記録の記入を行い、その方の生活、排泄、食事等のリズムについて把握できるようにしている。過ごし方が普段と異なる場合等は精神的に何があったかを日誌に書き込み、その事案についてどう対応していくか、必要であればユニットリーダーが書面にて説明するようにしている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 様々な視点を大切に考えている。通常のケアプラン、看取り、退院前、状態の変化等の場面では、NS、OT、Fa、Drからの意見やアイデアを参考にし、現場に合った計画を作成している。具体的実践できるものになっている。  (外部評価) 介護計画は、ユニットリーダーを含む職員が利用者や家族からの意見を大切に、アイデアやミーティングで練った内容を前提に立案しており、3か月に1回評価し見直しをしているが、状態変化がある場合は、直ちに計画を見直してふさわしい介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 排泄や水分摂取、バイタルなどの基本情報を振り返りやすいように工夫している。(半月分を24時間見れる等) その中から、排便への取り組みや睡眠、不穏・徘徊などのパターンや原因分析、ケアの評価も見やすくしている。必要に応じて、別途記録表を作成することもある。昨年度は、その記録を集計し、カンファレンスやケアの改善に用いた。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ケアが必要な部分が出てきた場合にまず原因の分析をし、課題となる部分に対するアプローチを何パターンか継続して行っている。必要な物品があればご家族に説明し、購入させていただいたり、食事や入浴の時間の変更や外出等工夫を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 本人が利用できる地域資源を探し、本人が活用して喜ばれる物や、楽しめるものに関して活用出来るものはユニットリーダーが予定を調整し活用するようにしている。認知度や身体レベルの重度化によっては現在活用出来ていないものもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 8割がいまなかクリニックになっており看護師が中心となり往 診の対応をしたり、家族と協力し受診している。ご利用者やご 家族が困る事がないよう必要に応じて同行したり書面を用意し ている。いまなかクリニック以外のかかりつけ医の受診や専門 機関への受診も同様に受診連絡表を作成し、生活記録表のコ ピーをわたし、必要であれば同行する事で適切に医療を受けら れるよう支援している。 (外部評価) かかりつけ医の月1回の往診があり、必要に応じて血液検査を したり、利用者の誕生日には定期健診も行っている。歯科の定 期往診や眼科往診の対応もあるため、家族の希望を含め、事前 にどのように対応してほしいかなど、書面で確認するようにし ている。また、日頃は面会時の手洗いやマスクの着用、毎食後 の換気、一介助一手洗い、インフルエンザ予防接種やうがいな ど、小さなことから衛生管理も徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ご利用者の変化について日誌等まとめておき、看護師が出勤時 に申し送るようにしている。緊急性の高い場合や処置の必要な 場合には電話連絡を行い、指示を仰ぐようにしている。継続し て処置が必要な場合には介護職員が行えるようにユニットリー ダーと相談して業務に落とし込むようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご利用者が入院になった場合、必要な情報の提供、荷物の準 備、業務時間で可能な時間に面会に行くようにしている。早期 退院が出来るように看護師に現状の確認や事業所として受け入 れの可能な状態、次期についての相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者本人の状態が変わってきた際に、転居、あるいは看取 りの説明を行うようにしている。重度化が進み長期にわたり寝 たきりが予想される場合は、転居等も視野に入れた話し合いを 行っている。看取りについては意向やこちらで出来る事を週に 1度、また、経過によって都度話し合いの機会を持ち確認す るようにしている。内容については主治医にも報告を行い、医療 とも連携を図れるようにしている。 (外部評価) 今までに8名の看取り経験があり、その都度ミーティングで振 り返っている。反省点等はあるが、思いや気持ちは次回に生か そうと努めている。振り返りを重ねていくことで改善し、より良 いものになるとユニットリーダーは判断しており、やればよ かったで終わらないようにしたいと考えている。今後も看取り は続けていくが、利用者に本当にふさわしい環境はどこかなど も踏まえ、一人ひとりに合ったケアに努めていく方針である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 昨年に続いて事故を未然に防ぐために、「こんなときどう対応するか？」事例を挙げそれぞれの対応について話し合い、危険個所や優先順位の確認を行っている。見守り携帯を使用し隣ユニットと連携に努めている。急変時のマニュアルや事故発生時の緊急連絡マニュアルはあるが、応急手当や初期対応の訓練は定期的には出来ていない。実例のあった場合に今後対応が可能なように説明をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 事業所では年二回、他事業所と協力し防災訓練を行っている。また、法人全体での訓練にも参加している。実際に防火訓練中前後利用者様に外に避難して頂き、かかる時間や避難経路の確認を行った。地域との協力は明確には決定していないので、今後も引き続き、地域の方との交流を続け、働きかけていく。 (外部評価) 7月には消防署立ち合いのもと訓練の予定があり、地域住民も参加できるよう計画しており、農作業を通じての交流があるため、地域からの参加も前向きである。事業所周辺は水害の危険性が高く過去に土砂崩れもあったため、今後はその対策が急がれる。備蓄品は、水、クラッカー、おかゆ、カレーなどを準備するほかガスコンロも用意し緊急時に備えている。また、トイレのカーテンは、随時防火カーテンに変え、熱源はオール電化になっており防火対策は万全である。	運営推進会議や自治会の定例会を通じ、地域ともっと関わり、協力体制が築けることが望まれる。緊急連絡網を抜き打ちで実施し、時間も計り利用者のことも念頭におきながら実施することなどを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) カンファレンスの中で言葉遣いや、羞恥に関するケアについて振り返り行うようにしている。職員全体が意識できるように、管理者、ユニットリーダーが言葉遣いコミュニケーションについて学ぶようにしている。声かけに関しては期間が経過すると慣れが出てくる部分もあるので定期的にこういったテーマでの研修を行うようにしている。 (外部評価) トイレの目隠しカーテンにも優しい心遣いが窺えるほか、居室に入る時は必ずノックをし入室することを徹底している。また声かけや言葉遣いの研修にも参加するなど重要視しており、「あなたの尊厳を守ります」のユニット方針にあるように、一人の人間としての誇りやプライドを守り、敬意を払った対応になるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 現場でご利用者が選択できるような仕組み作りを行っている。生活の場面で食べ物や飲み物を選ぶ方には選択していただいている。生活の中で同過ごしたいか等を形にして選択できるようになるとより良いと感じる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者の入れ替わりがあり、その方のペースを優先して業務を後に回すようにしている。必要なときに必要なケアが行えるようにユニットリーダーは日常業務において、現場が手薄にならないかどうか、または必要な所に手が足りているか、現場の声を確認し、オペレーションの見直しを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) スタッフが声をかけ、介助や本人自身が身だしなみについて整容を行っている。スタッフが衣類を複数提示したりして、選択の出来る人には選んでもらったりもしている。施設で黒染めを行っている方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の時間を楽しめるように席への工夫を行っている。ADLの近い人や認知症の状態によって落ち着いた環境が良い方にはその環境を作り、食事を取っていただいている。メニューに関しても好きなものを入れられるように可能なご利用者にはコミュニケーションをとりながら献立を立てている。可能な部分は調理にも参加してもらっており、作業を細分化することで役割を持てる人が多い。 (外部評価) 栄養士がバラエティーにとんだ献立を作成し、利用者の嗜好や季節感も取り入れ柔軟に対応するほか、献立変更も行うなど臨機応変な対応ができています。利用者ができることをできる時に手伝ってもらうなど連携も取れている。とろみをつけたり、咀嚼や嚥下など病態によって主食を減らしエネルギーコントロールをするなど、家族からの要望も確認し対応している。また、敷地内の菜園で収穫されたピーマン、枝豆、じゃがいも、カボチャやキュウリなども調理され利用者も喜んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 基本的には栄養士の立てた献立を参考にしているが趣向で変更しているところもある。栄養のバランスが偏り過ぎないように3食で調整を行っている。水分に関してもその方の適量(尿量、排便等から調べ)を提供できるように何時に何を、どのくらいというところまで記録に落とし込んでいる。必要に応じて血液検査を実施している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 前後利用者食事の後には口腔ケアを行っている。引き続き定期的に歯科衛生士の方に往診に来ていただき、口腔内の状況を確認して頂いており、アドバイスももらっている。認知の状態や磨き残し等多い場所には注意してスタッフが介助している。義歯はや歯ブラシは週1回洗浄、消毒を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 前年度と同じく排泄パターンを調べトイレでの排泄をしていた。可能な方、状況であれば極力トイレで排泄をしていただけるようにケアを行っている。時間帯やタイミングを調べる事でトイレでの成功率が上がったご利用者様もおられる。また排泄を自力で行う方にもどうすれば自力排泄につながるかをスタッフで考え共有し、ケアに反映させている。特に介助が必要な方の就寝後はセンサー対応している。</p> <p>(外部評価) トイレでの排泄を支援しており、おむつは、なるべく使わないようにしている。安心感を重視するために紙パンツを使用したり、紙パンツと布パンツを使い分けている利用者や、看取りに入ってもポータブルを使ったり、車いすに乗って二人介助でトイレを使用する利用者もおり、一人ひとりにあった支援ができている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排便に関してスタッフで知識を深め、実践で取組んでみることを実施してきた。引き続き、個々の排便パターンを今までのデータから調べ、排便に効果的であると思われる食べ物を食事に取り入れたり、センナ茶等を使用し極力下剤に頼らない排便を目指している。どうしてもケアだけでは排便が出ない方のみ薬を視野に入れて、検討している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴に関してもなるべく本人の意向に沿えるように時間、介助者の性別、タイミング等は聞くようにしている。リスクを考慮した上で夜間の入浴も行っている。介護度や必要な介助にもよるが意向に沿えるようにしている。自立できている部分は維持を目指しているが、重度化しシャワーチェアを使って入浴されている方もいる。</p> <p>(外部評価) 午前午後を問わず入浴することが可能となっている。また、シャワーのみか浴槽に浸かりたいかなど選択できるようになっており、利用者本位で安心して入浴ができるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ご利用者個々の生活リズム、睡眠の状態をアセスメントし眠られている状況がどれであるのかを確認している。逆に眠られていない場合、何が原因か、スタッフに関わる事で睡眠に繋がるか、薬が必要か、カンファレンス氏、医療とも連携をとっている。睡眠に関しての知識も職員で深め、スタッフ一人一人が夜の現場で判断を出来るように取組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用に関して看護師、ユニットリーダーがまず知識を深めスタッフに伝達している。疑問である部分は薬剤指導の際に具体的に薬剤師に確認して解決できるようにしている。現場でも効果や薬のない場合の常態について意識して観察が出来るように期間を設けてユニットリーダーが指示をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の中に楽しめる事があるように趣向についてアセスメントを続けている。日常中にご利用様が出来る事がないか確認できるようにオペレーションを見直したり、その方のADLについて記録に残すようにしている。屋内だけにこだわらず、外に出て行える事も実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 週に何度か買い物や、気分転換に外出を行っている。その日に希望がある場合にはそれをかなえられるように業務の調整等を行っている。ご家族に住んでいた自宅の場所を聞き、その場所へ行った事もあった。  (外部評価) 梅見物、河川敷でのお花見、椿祭りなど遠方へのドライブや南予への小旅行、菖蒲見物やミュージアム見学など、利用者の体の状態に合わせて出かけるように配慮している。また、外食も楽しみな外出の1つとなっており、利用者の要望に応じた外出支援は、フットワークの軽い職員の努力の結果と言える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在お金を使う事をしている方は少ないが、自身で所持されている方はおられる。欲しいものがある場合には自身のお金でも預かり金の中からでも支払う事が出来るようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族に電話をかける事を希望される場合にはその際に確認して電話するようにしている。以前は手紙を出す事も行っていたが、現在では行っていない。またご家族から電話で親と話したいとかけてきてくださる方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節を理解しやすいように廊下の壁にその季節にあった花や植物の掲示物を作って貼ったりしている。共有のスペースは住まわれているご利用者に合わせて変更を行っている。過ごす空間ごとに目隠しをしたり必要な箇所には手すり代わりに椅子や棚を置いたりしている。</p> <p>(外部評価) ユニット間には中庭があり、一周すると充分散歩するだけの距離があり、畳コーナーの休憩場所も作られている。窓からは緑豊かな風景が眺められ、一年の季節の移り変わりがよくわかる。トイレは迷うことなく行けるよう表示するなど利用者目線の支援ができています。また、心地よいリビングで過ごす利用者が多く、台所から美味しそうな匂いが届き、食欲が増進する利用者もいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 少人数で過ごせる空間をいくつか作っており、個別での対応をする場合にはそういった場所を利用している。食堂には各テーブル3つずつ程椅子を置いており、作業をするとき、会話をするとき等、状況に合ったご利用者様の組み合わせで座れるように工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にある物品はなるべく本人が使っていたものやなじみのあるものを置くようにしており、本人が住みやすいような工夫を行っている。住んでいた環境について不明な部分をご家族に確認を取ったりしながら環境作りを行っている。</p> <p>(外部評価) リモコンを操作できる利用者は、部屋の冷暖房調整を自分でしている。居室にはテレビ、ぬいぐるみ、仏壇やタンスなど、一人ひとりにとって思い出深い馴染みの品々が持ち込まれるなど、自慢の空間を作り上げており、使い慣れた布団で安心して休むことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) なるべく自立した生活が送れるように、各具の位置や高さを工夫している。ご本人が理解できるのであれば文字で表記したり、歩く場所に危険な箇所がないように定期的に見直しをしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500170
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム ほの花
所在地	新居浜市郷三丁目16-33
自己評価作成日	平成 28年 6月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 6月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっと、のんびり、かきねなし」この理念の元、入居者様の意向を大切に開かれた施設でありたいと努力している。ご家族との信頼関係、地域の方との交流を大切にしている。水分摂取に力を入れ、個別に目標を設定し、脱水の予防、便秘予防、日中の覚醒レベル向上に活かしている。排泄ケアにも力を入れており、排泄チェック表での排泄リズムの把握で、日中はほぼ布パンツで過ごせるよう自立支援に努めている。また、認知症状の改善には、服薬の見直しや学習療法を取り入れ、コミュニケーション能力の改善や生活の活性化に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人の複合施設が近くにあり協力し合っている。アットホームな温かい雰囲気は保たれ、和風の造りでほっとできる。利用者は職員を子供や孫のように愛し、職員は人生の大先輩として教えてもらうことも多い。職員の年齢差はあっても仲良く協力し、助け合いながらケアを実践している。「真の職員満足なきところに利用者の満足ない」ということをいつも頭に置いている。利用者一人ひとりのことを深く知るためにかかわり、その人に合わせ対応し喜ばれ、笑顔を見ることが出来る。出会ったことを大切に捉え、やりたいことが自由にでき、希望の叶えられる毎日であるよう、利用者を尊敬しながら日々取り組んでいる。運営推進会議では、改善したい点をアンケートを取るなど力を注ぎ、パワーポイントによる説明があり、議事録にきちんと残し、後で紐解くことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I.理念に基づく運営

#### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

#### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

が  
が

事業所名 グループホームほの花

(ユニット名) 椿

記入者(管理者)

氏名 阿部 勇一

評価完了日

平成 28年 6月 9日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) すいよう会の理念「地域と共に…」そのような理念を基に事業所の理念を作り、各ユニットで指針を作った。椿ユニットとして「あなたらしさ、わたしらしさを感じる椿・やりたいことができる、無理はない・縁を大切に・あなたの尊厳を守ります」というユニット理念に基づきケアプランを作成し、日々のケアに取り組んでいる。ユニット理念は、ユニット入口に掲示し、目につくようにしている。</p> <p>(外部評価) “ほっとのんびりかきねなし”笑顔で過ごす。暮らしの理念が共有空間に大きく書かれ、誰でも足を止めうなずくことができる。各ユニットごとにも指針を作り、利用者一人ひとりと深くかかわり知ることによってケアに活かせることができている。利用者のやりたいこと、希望を叶えることで笑顔が生まれ、人生の大先輩としての尊厳を守りながら、出逢った縁を大切に、日々積み重ねている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 昨年度と変わらず、自治会加入、地域の行事にも参加しており、清掃活動等も行っている。また地域での行事がある際には楽しめるご利用者様と参加するようにしている。盆踊り大会の際には各自治会、社協、民協等の団体の方にお願ひし、ボランティアの協力を得ている。近所の方が、野菜や園芸の指導を行ってくれている。</p> <p>(外部評価) 自治会の定例会には、ユニットリーダーが出席し「よろしくお願ひ致します。」とあいさつしたり、盆踊り大会の案内もしている。地域の社協や民協の協力も大きく感謝している。野菜や園芸は、利用者を通じ地域の方の指導を受けている。すくすく育ったキュウリ、ピーマン、ネギ、ジャガイモなどの野菜は、食材として調理され食卓に登場し、利用者に喜ばれている。散歩の時には、近隣の方々にあいさつを交わしたり、となりの託児所に立ち寄ることもある。また、保育園の入園式や卒園式にも職員が数名出席するなど地域とのつながりもできている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 昨年度と同じく、法人全体で勉強会を実施しており、地域の方や、御家族様にも声掛けを行っている。その勉強会の中で事業所として事例を通じた取り組みを伝える事で、認知症などの理解を深めてもらえるようにしている。管理者が地域や他部署に出向いて、認知症について話をする事もあった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) アンケートや直接ご家族様からの意見も聞き、ご利用者様本人が良いサービスを受けられるように発信している。ヒヤリや重大事故の報告に対し、意見を求めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の実施日時や内容について見直しのためアンケートを実施するなど、一層中身の濃い会議を目指している。会議では出席者はユニット内の見学を行うことにより事業所をよく理解することができ、地域との連携を深めることができる機会になっている。パワーポイント等の資料による説明やユニットごとにテーマを決めて学習するなど、前向きな姿勢がみられる。また、議事録はわかりやすく、後日紐解いてゆっくり読み返すことができ、出席できなかった職員にもよくわかる内容である。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 前年同様運営推進会議に参加案内は毎回している。定期的に待機者報告を行っている。流行っている病気や、高齢者の身に起こり得そうな事故の情報をいただき、カンファレンスで役立っている。日頃から密ではないが、事前に相談が必要な案件や事故対応については、素早く報告・連絡・相談している。</p> <p>(外部評価) 事故報告書を提出したり、介護保険等について電話で聞くなど行政とのかかわりがある。担当課の介護福祉課には、問題等がある場合よく連絡を取っており、課題解決に向け話し合い共に取り組むなど連携が取れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎年4月の全体ミーティングで身体拘束についての勉強会を行っている。以前同様夜間以外の施錠は行っておらず、ご利用者様に動きがあった際にご利用者様の気持ちや、どうしたいのか等関わりやケアを優先して行動できるように話し合いを持っている。優先順位や方法等具体的にカンファレンスで話し合うようにしている。</p> <p>(外部評価) 年1回学習会を開催し、声掛けの際の言葉遣いやコミュニケーションの取り方について、職員全員に徹底しており、「人として尊厳された言葉になっているか」、「その話し方でいいか」、「スピーチロックではないか」など、慎重に検討し業務に生かしている。また、安全のためセンサーマットを使用しているが、家族には説明し同意を得ている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修で虐待についての勉強会を継続して行っている。リーダーとスタッフの面談の中で具体的にストレスを感じることを具体的に聞き取り、負担の軽減の出来る働き掛けを行っている。スタッフは痣や傷等身体に異常がないか確認し、介助を行っている。傷などの発見があった場合には原因を分析し、次回起こらないための防止策を考えている。今年度は、スピーチロックについて3回に分けて勉強をした。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 引き続き研修や勉強会などで学ぶ機会を設けている。現在、自立支援事業や成年後見制度を活用する事はないが、必要性のある際に適時活用できるように今後も学んでいく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず重要事項説明書を用いて、十分な説明を行い各項目毎にご家族に確認をし、承諾を得ている。解約や改定にも速やかに対応し同意を得ている。ご家族が理解できるように例えを用いたりしつつ理解に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族からは運営推進会議や面会時、ケアプランの作成段階で、ご利用者からは普段の会話やケアプラン作成時に意見や要望等を察したり、直接確認する事で、運営に反映させている。  (外部評価) 家族が来た際には、日々のケアや利用者の様子などをきちんと伝達しており、その際に家族から利用者一人ひとりの興味のあること、好きなことや地域の情報などを教えてもらっている。全職員が「関わることで知ることができる」といつも考えており、利用者からの情報は聞き逃さないよう努めケアに生かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを不定期に行うようになったため、日々のお話し合いの中や日常の会話から意見・提案を聞くようにしている。  (外部評価) 職員は、管理者やリーダーには話しやすく、相談や悩みごとなどがあれば聴いてくれている。各ユニットリーダーは、日頃の利用者とかかわりで気づいたことなどを職員会等においてわかりやすく話してくれたり、職員からの意見も取り入れてくれたりと職員のことをよく考えており、職員もストレスがほとんどなく働きやすい環境に感謝している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) サービス残業をしない様通達し、残業は全て管理者に報告してもらい、適切な対応をしている。さらに、各担当業務に置いて、勤務中に済ませられるよう、時間を作るようにしている。個々の体調を考慮し、有給も取りやすいよう体調の把握に努めている。やりがいにおいては、各職員の特技・趣味を調査し、業務に取り入れた。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人研修（読書会、人材育成研修、管理者研修、認知症、介護技術等）の研修システムがあり、職員の質の向上に努めている。ほの花内でも年6回勉強会をし小グループでの発表等も行い知識の伝達、伝達技術の向上、共有を目指して取り組んでいる。法人外の研修にはあまり参加できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人内他事業所との相互見学、ご利用者様と一緒に他事業所でのレクリエーションや行事、外出へ参加し、交流を図っている。大きな行事(夏祭り等)で部署間を超えて協力する体制も作っている。また法人内でも木鶏会、人材育成を行っており、他事業所の職員と意見交換交流をする機会を作っている。法人外では、ほとんど交流はない。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居が決まった段階からユニットリーダー、一定のスタッフが数回にわたり面会し、そこで得た情報、要望など、全スタッフに周知している。入居してからがスタートではなく、それ以前より関係性や顔なじみの職員がいることでリロケーションダメージの軽減や、安心できる居場所づくりの基礎を作れるよう取り組んでいる。また住まわれている部屋の雰囲気や家具の配置をほの花でも再現し、可能な限り馴染みの空間での生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前後、直接や電話、お便りなど、情報の発信と収集に努めている。特に不安な事、強い要望には耳を傾けるだけでなく、現実的な対応をすることで、安心や期待に変えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面接での情報を基に、安心して生活できる環境作り（物的、人的環境の整備）に努めている。また、ご本人やご家族に何度でも見学して頂き、納得して入居出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる場面を多く作る為に、入居者さんが出来ることを奪わないよう配慮し、各自役割を持っていただき一緒に行っている。カンファレンス時、一人一人の役割について検討している。また、役割として知識や技術、人生論、経験してきたことを聞かせてもらい、より良い関係が築けるよう努めている。調理、菜園、編み物、縫い仕事では教えてもらうことも多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者が不穏な場合には電話での対応、面会、宿泊などの協力を依頼し、一緒に過ごして頂いている。日常にご利用者のご家族に望んでいることでは、家族と相談し、家族が出来る支援を話し合いケアプランに盛り込んでいる。家族が認知症についての知識が乏しく、本人との価値観が違うことで、関係が悪化するような場合には職員が介入し家族と話し合い何が大切なのかを理解、確認し改善できるよう取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある場所（美容室、お墓、お寺、神社、デイ、商店、ドライブなど）へ出掛けている。入居前に使っていた社会資源は調べており、現在も継続して使用できている。回数は以前に比べると減っているが、最大限取り組んでいる。外出が難しいご利用者と会いたい人がいるような場合は来訪して頂けるよう支援している。  (外部評価) 利用者との会話の中で「散髪はどこに行っていましたか」と尋ねるなど、本人の希望する馴染みの場所を把握し支援できている利用者からも喜ばれている。また、「体がしんどい」と訴える利用者は「〇〇神社にお参りしたら元気になるよ」と元気づけ参拝するなど、利用者の気持ちを汲んだ支援ができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者の性格、好み、相性、言動などの視点から関係性を考え日常生活を送る様々な場面で配慮している。共通項を探し無理なく自然と良い関係が築けるような支援をするよう心がけている。個々の状態を見極め集団と個別で過ごす時間を作る事で「快」の時間が多くもてるように対応している。また、ご利用者同士でのトラブルになる可能性が高い場面では職員が間に入ったり、普段過ごす場所を見直す事でトラブルの予防をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後もご利用者様のご家族と連絡を取り、関係性を継続するよう心掛けている。退去後もご家族様が訪ねて来て下さることもあった。法人の大きな行事の際には電話連絡を行い、お誘いするようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で個々に職員が関わる時間を意図的に作り、ニーズや思いを把握するようにしている。日常の中でのふとした言葉や、個別に関わって得た情報は記録に残し、それを基に話し合うことでケアの見直しに活かしている。即実現可能な件は迅速に、そうでない件も実現可能に向け話し合うようにしている。把握が困難な場合でも、「生活歴や基本的な人間の営みとしてQOLが高く、その人らしく生きる」ことを前提に考え取り組んでいる。	
			(外部評価) ユニットリーダーは利用者には、笑い、ヨガ、カラオケ、絵手紙、ハンドマッサージ、写真アルバム作りや折り紙など何に興味があるかを問いかけ把握し支援している。自分で訴えにくい利用者には、さりげない様子や何気ない言葉など見逃さないよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族の来訪時の会話やサービス利用のあった事業所からの情報提供、普段の会話の中から把握できるように努めている。面会に来ていただいた方や、傾聴ボランティアさんからの情報も参考にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 集団生活ではあるが、必ずしもみんな同じ時間という事にこだわらず、ご利用者1人1人の生活のペース・リズムに合わせて生活していただいている。身体の把握では、異変を感じた時のBDチェックを徹底している。看護師とも密に連携し相談することで適切な対応を心がけている。精神面では記録表に時間帯、行動、訴えなどを記録し一日だけでなく、一か月、半年と比較し原因の調査とケアの方針を決定している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 様々な視点を大切に考えている。通常のケアプラン、看取り、退院前、状態の変化等の場面では、NS、OT、Fa、Drからの意見やアイデアを参考にし、現場に合った計画を作成している。具体的に実践できるものになっている。  (外部評価) 介護計画は、ユニットリーダーを含む職員が利用者や家族からの意見を大切に、アイデアやミーティングで練った内容を前提に立案しており、3か月に1回評価し見直しをしているが、状態変化がある場合は、直ちに計画を見直してふさわしい介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 排泄や水分摂取、バイタルなどの基本情報を振り返りやすいように工夫している。(半月分を24時間見れる等)その中から、排便への取り組みや睡眠、不穏・徘徊などのパターンや原因分析、ケアの評価も見やすくしている。必要に応じて、別途記録表を作成することもある。昨年度は、その記録を集計し、カンファレンスやケアの改善に用いた。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々ニーズに対応できるよう、他事業所の協力やユニット同士の連携を図っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 本人が利用できる地域資源を探し、本人が活用して喜ばれる物や、楽しめるものに関して活用出来るものはユニットリーダーが予定を調整し活用するようにしている。認知度や身体レベルの重度化によっては現在活用出来ていないものもある。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 8割がいまなかクリニックになっており看護師が中心となり往診の 対応をしたり、家族と協力し受診している。ご利用者やご家族が困 る事がないよう必要に応じて同行したり書面を用意している。いま なかクリニック以外のかかりつけ医の受診や専門機関への受診も同 様に受診連絡表を作成し、生活記録表のコピーをわたし、必要であ れば同行する事で適切に医療を受けられるよう支援している。 (外部評価) かかりつけ医の月1回の往診があり、必要に応じて血液検査をし たり、利用者の誕生日には定期健診も行っている。歯科の定期往診や 眼科往診の対応もあるため、家族の希望を含め、事前にどのように 対応してほしいかなど、書面で確認するようにしている。また、日 頃は面会時の手洗いやマスクの着用、毎食後の換気、一介助一手洗 い、インフルエンザ予防接種やうがいなど、小さなことから衛生管 理も徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ご利用者の変化について日誌等まとめておき、看護師が出勤時に申 し送るようにしている。緊急性の高い場合や処置が必要な場合には 電話連絡を行い、指示を仰ぐようにしている。継続して処置が必要 な場合には介護職員が行えるようにユニットリーダーと相談して業 務に落とし込むようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院に伴い必要な情報の提供、荷物の準備のほか、付き添いが必要 な場合は家族と相談し介護サービス以外の機関の紹介や仲介を行っ ている。早期退院に向け入院中は面会や病院関係者に状況を説明し てもらい退院後の受入準備をしている。手術や重い疾患など発見さ れた場合は家族に依頼し医者との話し合いの場に参加させてもら うようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者本人の状態が変わってきた際に、転居、あるいは看取りの 説明を行うようにしている。重度化が進み長期にわたり寝たきりが 予想される場合は、転居等も視野に入れた話し合いを行っている。 看取りについては意向やこちらで出来る事を週に1度、また、経過 によって都度話し合いの機会を持ち確認するようにしている。内容 については主治医にも報告を行い、医療とも連携を図れるようにし ている。 (外部評価) 今までに8名の看取り経験があり、その都度ミーティングで振り 返っている。反省点等はあるが、思いや気持ちは次回に生かそうと 努めている。振り返りを重ねていくことで改善し、より良いものにな るとユニットリーダーは判断しており、やればよかったで終わらな いようにしたいと考えている。今後も看取りは続けていくが、利用 者に本当にふさわしい環境はどこかなども踏まえ、一人ひとりに 合ったケアに努めていく方針である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルや事故発生時の緊急連絡マニュアルはあるが、応急手当や初期対応の訓練は定期的には出来ていない。ミーティングにて、急変時の対応の確認を行ったり、事故を未然に防ぐために、「こんなときどう対応するか？」事例を挙げそれぞれの対応について話し合い、危険箇所や優先順位の見直し、確認を行っている。夜間は見守り携帯を使用し隣ユニットと連携に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 事業所では年二回、他事業所と協力し防災訓練を行っている。また、法人全体での訓練にも参加している。実際に防火訓練中前後利用者様に外に避難して頂き、かかる時間や避難経路の確認を行った。地域との協力は明確には決定していないので、今後も引き続き、地域の方との交流を続け、働きかけていく。  (外部評価) 7月には消防署立ち合いのもと訓練の予定があり、地域住民も参加できるよう計画しており、農作業を通じての交流があるため、地域からの参加も前向きである。事業所周辺は水害の危険性が高く過去に土砂崩れもあったため、今後はその対策が急がれる。備蓄品は、水、クラッカー、おかゆ、カレーなどを準備するほかガスコンロも用意し緊急時に備えている。また、トイレのカーテンは、随時防火カーテンに変え、熱源はオール電化になっており防火対策は万全である。	運営推進会議や自治会の定例会を通じ、地域ともっと関わり、協力体制が築けることが望まれる。緊急連絡網を抜き打ちで実施し、時間も計り利用者のことも念頭におきながら実施することなどを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者一人ひとりの生活歴や日々の会話の中で、それぞれ大切にしている物事や、習慣の把握に努め、どう支援すればよいか考え、ケアプランに盛り込んでいる。身体介護（特に入浴、排泄）においては極力本人の意向に沿うよう職員間で協力し対応している。適切な言葉づかいについて、年に1回は振り返りを実施している。  (外部評価) トイレの目隠しカーテンにも優しい心遣いが窺えるほか、居室に入る時は必ずノックをし入室することを徹底している。また声かけや言葉遣いの研修にも参加するなど重要視しており、「あなたの尊厳を守ります」のユニット方針にあるように、一人の人間としての誇りやプライドを守り、敬意を払った対応になるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自分の思いや希望を伝えられる方はその都度、自己選択・決定をしてもらっている。伝えることが困難な方もいるので少しでも伝えやすいように、選択ししやすいような場面を多く作るようにしている。職員が強制してしまわないように意思決定しやすい言葉を使うよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者の訴えがあった時、職員が単独で行う業務を優先しないように徹底している。限られた人員、時間の中で最大限その人らしさが支援できるよう、生活して頂いている。また、その時その時のご利用者の体調や気持ちや希望を優先するよう話し合い、臨機応変に対応する事を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの好みを大切に、身だしなみを整えている。更衣する際も職員が決めるのではなく、選択できるようにしている。散髪は施設でされている方が多い、毛染めを希望される方には入浴時に実施している。外出時は自分で化粧をされている方もいる。行事として、化粧をしたり、マニキュアを塗ったり、おしゃれする日を作り実施した。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を一緒に考えたり、食べたい物を献立に入れたりしている。調理でも、野菜を切ったり、盛り付けをして頂いたり、食事の準備でできることを手伝ってもらっている。片付けも、食器洗いや、台拭き、お盆拭きとそれぞれできることを行ってもらっている。食べたい物を食べに外食をしたり、バイキングで好きな物を好きなだけ食べてもらうということも実施した。	
			(外部評価) 栄養士がバラエティーにとんだ献立を作成し、利用者の嗜好や季節感も取り入れ柔軟に対応するほか、献立変更も行うなど臨機応変な対応ができています。利用者ができることをできる時に手伝ってもらうなど連携も取れている。とろみをつけたり、咀嚼や嚥下など病態によって主食を減らしエネルギーコントロールをするなど、家族からの要望も確認し対応している。また、敷地内の菜園で収穫されたピーマン、枝豆、じゃがいも、カボチャやキュウリなども調理され利用者も喜んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量ともに1人1人状態に合わせて調整している。体重の状況や血液検査の結果、糖尿病等の病気に応じて、食事の量は調整している。咀嚼・嚥下が困難な方には、お粥、トロミの使用、市販の老人食等可能な範囲で対応している。水分は、あまり進まない方には寒天にしたり、形状を工夫し、摂取してもらえる様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施している。自力で行える方には声かけし実施してもらい、自力で行うことが難しい方は、出来る範囲で行ってもらい、不十分な箇所は介助を行っている。自力で行っている方も夕方は、口腔内確認させてもらっている。定期的に義歯洗浄剤を使用し、道具の洗浄も実施している。希望や口腔内の状況に応じて歯科医や衛生士によるケアやアドバイスをもらい、道具も揃え対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 食前食後にトイレに座るよう声掛けを行っている。生活記録に排泄状況を記録することで、排泄パターンを把握し、失禁・失敗の無いようにご利用者それぞれに合わせた声掛け、誘導を行っている。パ失禁が増えたからと言って、安易にパットを大きくしたり、紙パンツにするのではなく、まずは、なぜ増えたのか原因を考え、アプローチしている。本人の安感から、紙パンツを使用されている方もいる。</p> <p>(外部評価) トイレでの排泄を支援しており、おむつは、なるべく使わないようにしている。安心感を重視するために紙パンツを使用したり、紙パンツと布パンツを使い分けている利用者や、看取りに入ってもポータブルを使ったり、車いすに乗って二人介助でトイレを使用する利用者もあり、一人ひとりにあった支援ができています。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食後のトイレ声掛け、誘導の実施。食事・水分・運動・服薬の見直しといった、基本的な生活を見直し、便通に良い食物の摂取し（玄米、バナナ、牛乳等）、便秘の解消・予防に努めている。それでも、出にくい場合は、センナ茶を使用したり、下剤を調整することで便秘にならない様取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 一人一人の入浴希望を確認している。時間帯や入浴の方法を確認している。午前か午後か、同性介助や、浴槽に浸かる浸からない等。希望に合わせて入浴出来るよう、その日の職員で話し合い対応している。状態に合わせて、入浴するかしないか、選択できる人には、選択してもらっている。基本週2回は入浴できるようにしているが、退院後等状態により、清拭対応や週1回の入浴にする事もある。</p> <p>(外部評価) 午前午後を問わず入浴することが可能となっている。また、シャワーのみか浴槽に浸かりたいかなど選択できるようになっており、利用者本位で安心して入浴ができるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ご利用者の状態を把握し、日中は、その日、その時の状態、体調により、休む時間を作るようにしている。夜間、寝つきの悪い方は、日中の生活を見直し、活動量を増やしたり、日光を浴びたり、睡眠に繋がるよう取り組んでいる。それでも、寝付けない方やもともと眠剤を飲んでいて習慣になっている人は、薬を使用して、ゆっくりと休んでもらえる様になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の作用・副作用を理解し、飲むタイミングや薬の形状など、1人1人が飲みやすいように工夫している。服薬変更時は、変更の前後で状態の変化に気を付けている。在宅薬剤管理指導を利用しているご利用者もいる。薬剤師に薬について、様々な助言を頂き、ケアに活かしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者との会話や、家族、過去を知る人から情報を集め日々の生活の中で趣味や特技をどのように支援すれば役割や楽しみとして活かせるか話し合いケアプランを作成し実践している。決まった事はカレンダーに予定として入れ、実施出来るようにしている。また、季節の行事や非日常を演出するような行事を計画し楽しんでもらえるよう工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の希望と習慣を把握し、行事での外出、個別ケアでの外出を明確にし予定を立て支援している。突発的な希望に対しても職員間で話し合い出来る限り対応している。帰宅願望のある方に対して、家族と協力し、自宅へ帰る支援が出来るようにしている。年に一度は遠出の外出支援を計画・実践している。ご利用者に合わせ、無理のない頻度で安心して楽しんでもらえるようケアプランを作成し実践している。法人内他事業所の外出行事に参加することもある。  (外部評価) 梅見物、河川敷でのお花見、椿祭りなど遠方へのドライブや南予への小旅行、菖蒲見物やミュージアム見学など、利用者の体の状態に合わせて出かけるように配慮している。また、外食も楽しみな外出の1つとなっており、利用者の要望に応じた外出支援は、フットワークの軽い職員の努力の結果と言える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は金庫にて個別に管理している。自分でお金を少し持たれている方もいる。ご本人管理の金銭については紛失などの恐れがあることを家族に理解してもらっている。一緒に買い物に行き好きな物を買ったり出来るよう個別ケアも行っている。預かり金以外に家族からお金をもらい個人管理している方はご自身で支払いする事もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から希望があれば電話をかけたたり、ご家族から電話をかけて頂くなどしている。手紙や小包が届いた場合は届いたことやお礼の連絡をしたりするようにしている。希望時以外にも、家族の事を気にされ落ち着かない時等、こちらから声掛けし電話をかける事もある。家族との連絡用に携帯電話を持たれている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節のものを置いたり、ご利用の方が作られた作品、散歩途中で摘んだ花を各テーブルや洗面台に飾っている。中庭、玄関先に花を植えたり、畑に旬の野菜を植えたりしている。フロアは毎食後、トイレ、廊下は毎朝掃除し清潔にしている。トイレの隅にバケツ、雑巾を置き汚れていたらすぐ掃除できるようにしている。快適に過ごせるよう温度湿度には注意している。</p> <p>(外部評価) ユニット間には中庭があり、一周すると充分散歩するだけの距離があり、畳コーナーの休憩場所も作られている。窓からは緑豊かな風景が眺められ、一年の季節の移り変わりがよくわかる。トイレは迷うことなく行けるよう表示するなど利用者目線の支援ができていいる。また、心地よいリビングで過ごす利用者が多く、台所から美味しそうな匂いが届き、食欲が増進する利用者もいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 少し目隠しになっている廊下にあるテーブル・イスの所で1人になれたり、ソファで気の合うご利用者同士お話をされたり、テレビを観たりしている。皆が同じところに集まるのではなく、2、3人で集まれる空間を2か所作っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や布団など馴染みの物を置き、使い易く落ち着ける空間作りを行っている。今まで生活に近い環境を作れるよう、ご家族と協力し環境を整えている。本人の状態により、家具等で怪我する恐れがある等、危険と思われる場合、馴染みの物でも安全なものに変更してもらっている。認知症状の進行やADLに変化があった場合可能な限り安心、自立できるような環境を心がけている。家族の写真などを置く事でコミュニケーションのきっかけにもなっている。</p> <p>(外部評価) リモコンを操作できる利用者は、部屋の冷暖房調整を自分でしている。居室にはテレビ、ぬいぐるみ、仏壇やタンスなど、一人ひとりにとって思い出深い馴染みの品々が持ち込まれるなど、自慢の空間を作り上げており、使い慣れた布団で安心して休むことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 共有スペース、居室出入り口には転倒防止のため、手摺りを設置。トイレは車いすの方も使用しやすいよう、扉を開放し、カーテンで目隠ししている。トイレ、風呂、居室には表札や表示をご利用者の目線にあわせ設置しわかりやすくしている。ご利用者の状態に合わせ、共有スペースの配置換えも行っている。</p>	